



©WFP/Hussam Al Saleh

子どもたちは戦いと空腹に耐える毎日。シリアの包囲地区・マダヤにて。

飢餓のない世界をめざして

国連の食糧支援機関

国連WFPニュース

Mar.2016 Vol.48

シリアの包囲地区に食糧を届ける

キルギス『人』の中に財産を残す支援
～知花くらさんが現地訪問～

シリアの包囲地区に食糧を届ける

シリア紛争は3月で発生から5年を迎えます。

紛争終結に向けての努力が続けられていますが予断を許さない状況です。これまでにシリア人の半数以上が家を追われ、4人に3人が貧困に陥っています。



©WFP/Hussam Al Saleh

1年半ぶりに支援が届いたシリアの包囲地区・モアダミヤにて。暗闇の中、食糧を受け取りに来た家族。

「逃げるにしても、お金がかかるし危険です。かといって、ここに残るのも同じ状況です。家族がいるから、私は死ねないんです。どうしたらいいんでしょう?」あるシリア人の声です。

特に懸念されているのは、「兵糧攻め」戦術のため包囲され、食糧や医薬品などが搬入できなくなっている地域です。外界から物資が入らないため、砂糖1キロの価格がおよそ2万円と高騰。人々は雑草を食べて飢えをしのぎ、ひどい栄養不良に陥っています。暖を取る場所や燃料もありません。シリア国内ではこのような包囲地区が18以上あり、50万人近くが閉じ込められています。

国連WFPなどの支援機関はこれまで何度も包囲地区へ支援物資を搬入するための交渉を続けてきました。また、アーサリン・カズン国連WFP事務局長は国連安全保障理事会にて、シリアでの支援活動が妨げられていると報告し、包囲作戦の即刻解除や人道目的の休戦、支援物資を届けるための無制限かつ持続

的な立入り許可などを求めました。

その結果、状況はやや前進し、1月には国連WFPなど支援機関の合同車両がマダヤなど5つの包囲地区に3回入り、食糧や医薬品などの支援物資を6万人に届けることができました。「到着を待っていた子どもたちは、『何でも良いから、すぐに食べられるものをちょうだい!』と言いました。」と、現場にいた国連WFP職員は語っています。

さらに2月中旬には、5つの包囲地区に入り、8万人に対し、小麦、豆、缶詰、栄養不良に有効な栄養強化食品などを配りました。そのうちの一つ、モアダミヤに支援が入ったのは実際に1年半ぶりのこと。電気のない暗闇の街に食糧袋が荷下ろしされる間、子どもたちはトラックの周りに集まり、袋からこぼれた豆を拾い集め口に入れていきました。それほど

2月初旬、シリア支援の国際会合に空腹が続いていたのです。

それでも多額の支援が表明されました。



モアダミヤに届いた米と豆の袋。トラックのライトと懐中電灯を頼りに、暗闇での荷下ろしが続いた。

おかげで、当面は活動を継続できるようになりましたが、今年末までシリア国内及び周辺国で活動を行うためには、依然として280億円が必要しています。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

(この記事は2月29日の記事執筆時の情報に基づいています。)



©WFP/Maxim Shubovich

子どもたちと給食を食べる知花さん。この日の給食はピラフ、サラダと焼きたての栄養強化パン。

雄大な山に囲まれ牧畜が盛んなキルギスは、旧ソ連の一部だった時代に社会基盤や制度が整備されました。しかし、1991年に独立後、不安定な政治体制や自然災害によつて開発が遅れています。

まず、知花さんは東部の町カラコルの学校へ、給食改善事業を見学に。ここでは政府が以前より給食を提供していましたが、中身はパンと紅茶だけでした。そこで、国連WFPが給食室の整備や調理師の研修、栄養価の高いレシピの提供などを行い、去年から充実した給食を提供であります。子どもたちは、「給食が変わつてすごくおいしくなつたの！」と嬉しそう。「支援が終わつても持続できるよう、生産者ともつながりをつくつているのは進歩的

キルギス『人』の中に財産を残す支援 く 知花くらさん が現地訪問く



昨年11月、国連WFP日

本大使の知花くらさん

が、国際協力や途上国への関心を高めるキャンペーン「なんとかしなきや！プロジェクト」の一環として、中央アジアのキルギス共和国を訪問しました。

雄大な山に囲まれ牧畜が盛んな

キルギスは、旧ソ連の一部だった時

代に社会基盤や制度が整備されました。しかし、1991年に独立後、不安定な政治体制や自然災害によつて開発が遅れています。

まず、知花さんは東部の町カラコ

ルの学校へ、給食改善事業を見学

に。ここでは政府が以前より給食を

提供していましたが、中身はパンと

紅茶だけでした。そこで、国連WFP

が給食室の整備や調理師の研修、栄

養価の高いレシピの提供などを行

い、去年から充実した給食を提供で

きるようになりました。食材はなるべく地元から買い、地産地消を目指

しています。子どもたちは、「給食が

変わつてすごくおいしくなつたの！」と嬉しそう。「支援が終わつても持続できるよう、生産者ともつながりをつくつているのは進歩的

ですね。」と知花さんは感心していました。

また、この学校では食育の授業も開始。子どもたちはゲームを通じて食品群やその働きについて学んでいます。この給食改善事業は現在は試験的な実施ですが、現地政府は国連WFPの支援のもとで全国に拡大予定です。

次に、東部のボズウチュク村へ、女性たちのハーブ生産組合を訪ねました。ここで国連WFPは他団体と連携し、付加価値の高いハーブの栽培研修や農機材の提供、農業組合の

入が低いことが大きな問題の一つです。ここでは女性の地位や収入が低いことが大きな問題の一つです。ここで国連WFPは他団体と連携し、付加価値の高いハーブの栽培

研究

研究や農機材の提供、農業組合の

運営支援などを実施してきました。

東へ西へ、移動距離およそ

20000kmを走り抜けたキルギス

視察。振り返った知花さんの言葉

です。「この国は今、自立に向けて最終滑走をしているのだと思いま

す。そして、国の力になるのは『人』。『人』を育て『人』の中に財産を残していく支援に、可能性や希望を感じました。」



食糧支援を受けて裁縫技術を身につけた女性たち。

©WFP/Maxim Shubovich

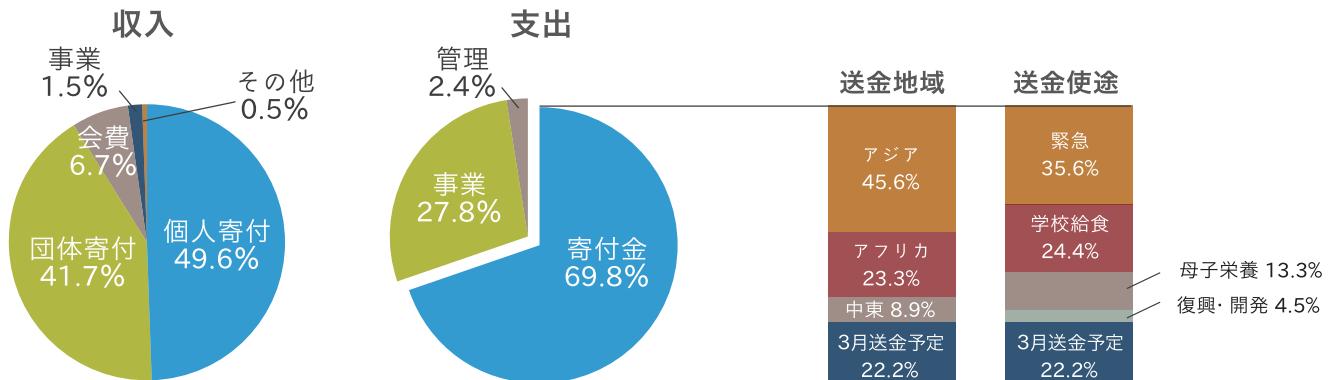
結成支援などを行いました。研修中は、国連WFPによる食糧の配給が彼女たちの生活を支えます。「ハーブ栽培を始めて収入が安定したわ！」と女性たち。知花さんは新鮮なハーブティーをごちそうになり、伝統の歌と踊りでもなしを受けました。

最後に、日本の支援金による女性支援プロジェクトを訪ね、西部アマンバイエブ村へ。ここでの女性たちも、国連WFPによる食糧支援を受けます。ここでは女性達の貴重な収入源となります。また、農業研修ながら裁縫や農業研修を受けた家庭は、「収穫量が増え、手に職をつけました。長い冬の間にもできる裁縫は、女性達の貴重な余った分を売れるようになつたんですね！」と語り、知花さんに保存食をふるまつてくれました。

東へ西へ、移動距離およそ20000kmを走り抜けたキルギス視察。振り返った知花さんの言葉です。「この国は今、自立に向けて最終滑走をしているのだと思います。そして、国の力になるのは『人』。『人』を育て『人』の中に財産を残していく支援に、可能性や希望を感じました。」

2015年会計報告

日頃より、国連WFPの活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。2015年度（2015年1月～12月）に国連WFP協会に寄せられた企業・団体、個人の皆様からのご寄付を含む収入合計は13億1,671万9,195円となりました。ご協力に感謝申し上げるとともに、引き続き国連WFPへのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



合計13億1,671万9,195円 合計12億9,048万8,453円

※国連WFPローマ本部との取り決めにより、寄付金収入のうち75%以上は途上国での支援活動のためローマ本部へ送金しており、残り25%（上限）は国連WFP協会が国内で行う募金活動、広報宣伝活動、管理費等の運営経費に活用しています。

※詳細はHP (<http://ja.wfp.org/content/jawfp-funding-2015>)

身近な国連WFP支援

お買い物が支援につながります！

レッドカップキャンペーンに新しく参加した商品をご紹介します。商品の売上の一部は国連WFPの学校給食支援に寄付されます。



プリマハム株式会社
「直火焼 デミグラスハンバーグ」
2016年1月～6月



株式会社ミスター・マックス
「RESCUE-T」
2016年3月17日～7月7日

レッドカップキャンペーンとは



国連WFPが給食を入れる容器として使っている赤いカップを目印に、学校給食支援の輪を広げるため展開しているキャンペーン。
詳しくはウェブサイトをご覧下さい。
www.jawfp.org/redcup

インフォメーション

「WFP ウォーク・ザ・ワールド」、 横浜と大阪で開催！

子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティーウォーク「WFP ウォーク・ザ・ワールド」を今年も開催します。参加費の一部は国連WFPの学校給食支援に寄付されます。今回はこれまでの横浜に加え、大阪でも初開催！皆で歩いて途上国の子どもたちに給食を届けましょう。

日程 横浜 5月15日(日) 大阪 5月29日(日)
コース 5km もしくは 10km
参加費 一般 1,500円(当日 2,000円)
小学生 500円(当日 800円)
詳細・お申し込み www.walktheworld.jp
お問合せ 0120-711-951
(エントリー事務局。平日 10:00～17:30)

